

おはようございます。
長崎大学人河野茂です。
今日が最後のメッセージとなります。

<夢を育む><困難を乗り越える><楽しいことをする>という一連のメッセージを送りました。

沢山の反響があり、非常に嬉しいです。
ひとりひとりのメールを丁寧に読ませて頂きました。
ありがとう。

また、この私の最後のメッセージのあなたの感想をお気軽に送ってください。
最後の一週間、皆さんのメッセージを読みながら、任務を全うしたいと思います。
どのような内容でもかまいません、皆さんの前向きなメッセージを待っています。

さて、最後の話題は、<地球規模で考える>。
少し長くなりますが、お付き合いください。

私は旅行が大好きです。
北米やヨーロッパが多いですが、南米、アフリカ、アジア、オーストラリアなどの都市も訪れましたが、南極と北極に行った思い出は強く残っています。

(10年前の私の日記を抜粋します)

南極はさすがに遠かった。飛行機で成田から中東のドーハに行き、乗り継いで南米アルゼンチンのブエノスアイレスに行き、さらに乗り換えて最南端にあるウシュワイアーまで行った。

そこからオーシャンダイヤモンド号に乗って船旅で南極にまでいったが、片道5日間かかった。

12月の南半球は夏にあたり、流氷や氷山はあるものの、氷に閉ざされることなく進める季節であった。

波の高い荒れた海で知られるドレーク海峡を越えて南極大陸に近づいていった。

大晦日は白夜であり、昼と同じ明るさのなか、カウントダウンで乾杯をした。

南極の流氷や氷山があり、ゾーディアックというゴムボートで近づいて、氷を取ると中からパチパチと音がした。

これは何万年前に大陸降り積もった雪に閉じ込められて氷の中の空気だそうだ。(中略)

当時はまだ地球温暖化は今ほどひどくはなかったと思います。

そして今年の6月、北半球の夏に北極に行きました。

(今年の6月の日記を抜粋します)

フィンランドのヘルシンキに行き、そこからノルウェー領のスピッツベルゲン島に飛行機でいった。

今回はロシアのウクライナ戦争のため、ロシア上空は通れず、大きくアラスカさらにはカナダ沿岸へ迂回して北極海をまわって、13時間かけてのルートを取った。

そして北緯78度にあるロングイールビューエン(人口2600人)からウルトラマリン号で北極海の航海に出発した。(中略)

万年雪でできた氷河により削られたフィヨルドが至る所に形成されている。

島の西海岸を北上すると、多くの冰山に出会い、大きな船からゾーディアックボートに乗り換えて、島の沿岸をめぐる、冰山から溶け出した氷を触ったり、アザラシやカモメ、鯨なども見る事が出来た。(中略)

私たちは極めて珍しい現象を目撃した。2匹の白熊が遊びながら、海を泳いで渡っていた。熊は海の中を時速6.5kmで、65kmも泳げる能力があるそうだ。

温暖化は極めて深刻で、北極の氷がいつまで続くか本当に心配になった。(中略)

出発したロングイールビューエンに到着し、そこにあるスヴァールバル世界種子貯蔵庫、正式名称は「あらゆる危機に耐えうるように設計された終末の日に備える北極種子貯蔵庫」を見に行った。

永久凍土層に築いた地下貯蔵庫は当初設計により最大300万種の種子の保存を前提にし、人工的に温度をマイナス18~20度に保ち、万が一、冷却装置が故障した場合にもマイナス4度を維持できる環境に置かれている。

地球温暖化を想定して、貯蔵庫は海拔約130mの岩盤内部約120mの地点に設けられていた。北極圏ならではの装置であった。

今の人類の様子を考えれば、必要な準備のようにも思われる。(後略)

長くなりましたが、あえて日記を抜粋しました。

何をいいたいかというと、地球規模で考えるために、まずは、自分の体や心を動かして、自分の目でみてみよう、自分の心で感じてみよう、ということです。

それは、私のように北極や南極に行く必要はありません。

様々な国の人と話したり、海に行ったり、川や山に行ったり、ニュースをみたり、先生や友人と話したりすることが重要です。

私は、＜プラネタリーヘルスに貢献する長崎大学＞を宣言しましたが、それは、紙の上の言葉ではなく、机上の空論ではなく、行動様式のひとつとして欲しい、これが、私の最後のメッセージです。

地球規模で世界を感じ、世界規模で長崎大学を考え、あなた自身のテーマとして、地球の健康を考えて行動して欲しいということです。

私は、学生時代を含めると約半世紀を、長崎大学人として過ごしました。

そして、様々な経験をしました。本当に幸運であったと思います。

一番の幸運は、戦争がない時代を生きて、世界のほとんどの国に行ける自由があったという事でしょう。

これは、非常に大事なことです。今、それを脅かす危機が迫っているような気がします。

この問題も世界規模でものごとを考えないと、危機を回避することはできないでしょう。

また、長崎大学人として、様々な国に行くと、先々で有機的な連携をすぐに作れるチャンスがありました。

Nagasaki という地名は、多くの国々の人に知られており、受け入れてもらえる機会が多くあると感じました。

もちろん先人たちの努力のおかげでしょう。

ぜひ、若い人々は、＜長崎から世界へ＞を実現して欲しいと願っています。

人生100年時代。

これからの長崎を、日本を、世界を、生きがいのある世界に変えてゆくのは皆さん自身です。

そのためには長い人生をどう生きていくか、考えてください。

夢を持ち、様々な困難が待ち受けていようとも、楽しい心持を忘れずに、それに果敢に挑戦してください。

もちろん学生だけでなく、教職員の皆さんも、挑戦することを忘れないでください。

変革し続けることでしか、組織は生き残ってゆきません。

挑戦する気持ちを常に持ち続けましょう。

100回失敗してもいいんです。

101回挑戦すればいいじゃないか。

挑戦し、学び続けてこそ、価値のある人生を送れるでしょう。

私は、精一杯挑戦し続けて、大学人としての仕事を終えます。

悔いはありません。

私の挑戦、大学の挑戦を応援し、サポートし続けた皆さん、ひとりひとりに、感謝したいとおもっています。

今、私は、しっかりと、永安武新学長へバトンを渡しました。

さあ、みなさんは、長崎大学人として、新しい学長と共に、新しい時代を切り拓いてください。

前進あるのみ。

そうそう、前回のメールで私の歌の動画を紹介しましたが、ちょうど次の“新曲”をアップロードできましたので、ご覧ください。

こちらです。

<https://youtu.be/2mBR8T-aEV8?feature=shared>

さあ、最後になりました。

みなさん、ほんとうに、ありがとう。

そして、さようなら。